

入選

小さな親切

岡山県 粒江小学校 六年

福永 瀬里奈

私は小さいころ、スーパーの駐車場に置きっぱなしになっているカートをしめました。私が、このようなことをするようになったきっかけは、お母さんが「心の貯金」の話をしたからです。

心の貯金をお母さんははじめ、「陰徳を積む」という言葉で教えてくれました。陰徳とは、人の見ていない所で、人がやりたがらないことや、人が気づいていないことに気がついて、自分からそっせんしてやることです。

人にほめられたり、認められたり、ありがとうと言ってもらうためではなくて、自分のためと、人のためにやることは、自分の心の中に、貯金みたいにたまって行って、大人になったときに、それが自分の強みになる、と教えてくれました。

このことを教えてくれたとき、私はちょうど、お母さんとスーパーの駐車場にいました。そして、私はお母さんに、

「何をしたら、心の貯金をためられるの？」と聞いたところ、お母さんは、

「大きなことじゃなくていいのよ。自分のできることでいいんだよ。例えばあの放置されているカート

を、片づけることから始められるよ。」

と言われたことがきっかけで、私はカートを片づけるようになりました。その姿を見て、妹もそっせんしてカートを片づけるようになりました。その様子を見て、私は思いました。

「もしかすると、私が学校でも同じようなことを続けると、周りの友達も妹と同じようにするようになるかもしれない。」と。

そこで私は、学校でも心の貯金になるようなことを試してみることにしました。

例えば、放置されたそうじ道具を片づけたり、落ちているごみを拾ったり、となりの席の人が落とした文房具を拾ったり、落ちている牛乳パックを拾うなど、たくさんの小さな親切をしました。そうすると、周りの友達も少しずつ小さな親切になるようなことをし始めました。

それから、私はこれを心がけるようになって、気づいたことがもう1つあります。それは、周りの人がしてくれていた小さな親切に、気づきやすくなったことです。

近所の公園で暑い中、寒い中で雑草を集めていたり、ショッピングモールなどをそうじしている清掃員さんたちの小さな親切に気づきました。そして、私たちの生活はふだんから、だれかが見えないところでしてくれている親切によって支えられているんだな、とありがたく感じました。

人の親切にも気づき、そして自分からも陰徳を積む心がけを、私自身がすることによって、きっと小さな親切の輪は大きく広がっていくと思います。そうすれば、だれもがお互いに親切にし合う平和でやさしい世界になるのではないかと思います。

これからも小さな親切を心がけて、継続していきたいと思いました。